



# 茶

## 熱中症を 防ごう！



農業経営支援課  
山本 尚充

### 《熱中症対策》

農作業中の熱中症による全国の死亡者数は、毎年20人前後で推移し、7月と8月に70〜80代の方が屋外作業を行うときに集中して発生しています。次のことに注意して作業しましょう。

- ① 日中の気温の高い時間帯を避ける
- ② 作業前・作業中の水分補給と休憩（喉の渇きに関係なく20分おきにコップ1〜2杯の水分補給）
- ③ 熱中症予防グッズの活用
- ④ 単独作業を避ける

手足のしびれやめまい、吐き気、頭痛、意識障害などの症状が出たら、すぐに作業を中断しましょう。環境省の「**熱中症予防情報サイト**」で暑さ指



熱中症予防情報サイト  
はこちらから

数を確認できます。（9月28日（金）まで）

### 《中切り更新圃の処理》

一番茶後に中切り更新をした茶園は、**中切り後60〜70日**になるとかなりの再生芽が伸びていると思います。再生芽をそのまま放置すると芽数が減少します。**中切り面より5cm程（2葉くらい）残した位置で整枝**すると芽数が増え、来年の一番茶の減収を少なくすることが出来ます。

### 《病害虫防除》

#### 二番茶摘採後〜三番茶萌芽期の防除

7月上中旬は**コカクモンハマキ・チャハマキ**の第二代幼虫の発生時期です。各地の誘蛾灯やフェロモントラップで発生時期を把握し、適期防除をしましょう。薬剤散布時期は

一般的に発生ピーク（産卵期）から7日〜10日後の若齢幼虫期ですが、脱皮阻害剤（IGR剤）を使用する場合は遅効性のため、発生ピークの産卵期に散布してください。

二番茶摘採後に降雨が多い場合、山間部を中心に輪斑病が多発する可能性があります。輪斑病菌は摘採時にできた傷口より入り込み、5日前後で発病するので摘採後早めの防除が必要です。

#### 三番茶萌芽期〜開葉期の防除

**チャノミドリヒメヨコバイ**、**チャノキイロアザミウマ**は高温で乾燥した気候が続くと多発します。この時期は10日〜20日で卵から成虫になり、成虫でも20日以上生存します。多発園は2回防除が必要です。

降雨が多い場合は炭そ病も多発します。開葉期と2〜3葉期の2回散布が効果的です。